

若宮八幡秋季大祭・裸祭り

900 年以上の歴史がある若宮八幡社秋季大祭は、本来は豊作について感謝の意を表するために行われました。今では三大裸祭りの一つとされ、男性の参加者は締め込み（ふんどし）だけを身に着けます。秋の冷えた気候にもかかわらず、足袋以外は他に何も着用しません。

この 3 日間の祭りの中心は神輿です。神輿は、「持ち運びのできる神社」あるいは「神聖な輿」としても知られます。初日には、男たちが桂川の右岸にある若宮八幡神社から神輿を運び出し、いくつかの地区を練り歩きます。次に、厳寒の川を渡ります。川には 16 メートルある 5 トンの松明が立てられ、これは大たいまつとして知られています。近くの御玉橋から放たれた火矢によって点火された松明は明るく輝き、川を渡る神輿を照らし出します。群衆の喝采や鳴り響く太鼓が、神輿を桂川左岸の下流にあるゲクウまで運ぶ男たちを励まします。神輿はゲクウに二晩留まり、その後、男たちは川を渡る同じルートで神輿を若宮八幡神社に戻します。再び大たいまつが点火され、男たちが凍るように冷たい水の中を勇ましく歩くなか、神輿を照らし出します。